

シャーマン・ウィルコックス教授
ニューメキシコ大学言語学科

コミュニティをつくる

言語学科に手話通訳養成, 手話研究, ろう文化を組み込む

Dr. Sherman Wilcox (University of New Mexico)

Building a Community: Integrating an Interpreting Program, Signed Language Research, and Deaf Culture in a Linguistics Department



リンゼイ・フェラーラ准教授
ノルウェイ工科大学言語・文学部

言語学研究で手話コミュニティを発展させる

Dr. Lindsay N. Ferrara (Norwegian University of Science and Technology)

Promoting Signed Language Communities through Linguistic Research



ディスカッサント

前川和美

関西学院大学手話言語研究センター助教

Maegawa Kazumi (Kwansei Gakuin University)



公開講演会 手話研究と手話教育 —ろう者の役割・聴者の役割—

Sign Language Research and Education: the Role of Deaf and Hearing People, Teachers, and Researchers

手話研究と手話教育の関わりについて、世界をリードしてきたアメリカで手話研究と手話通訳養成について長年のキャリアを持つシャーマン・ウィルコックス教授と、ノルウェイの心理・認知言語学の研究者であるリンゼイ・フェラーラ准教授を迎え、手話言語特有の社会言語学的事情をふまえ、どのように大学で手話に関する教育と研究を行っているのか、またろう者・手話コミュニティとどのように有機的に関わっているのかお話しいたします。

関西では、みんぱく手話部門SILLRで、手話研究と手話通訳の養成が行われています。また、関西学院大学には日本手話の教育の歴史があり、2015年に手話言語研究センターが発足しており、教育と研究の相互作用が期待されます。

今回の講演会では、関学で長年日本手話を教えながら、日本手話を研究しているろう者の前川和美先生をディスカッサントに迎え、日本の事情を踏まえた、聴者とろう者の研究者・教育者の役割、今後期待することについてディスカッションを行いたいと思います。

海外からの講演者の講演は英語でおこない、ディスカッサントは日本手話で話します。英語は日本手話へ、日本手話は英語へ通訳されます。手話の研究と教育に興味のある研究者、ろう者、手話話者問わず、ふるってご参加ください。

[日時] 2019年8月4日(日) 13:30~16:30

[会場] 国立民族学博物館 (大阪府吹田市)
第5セミナー室

交通アクセス情報については国立民族学博物館ウェブページでご確認下さい。

[使用言語] 講演は英語と日本手話で行われます。

日本手話と英語の同時通訳を行います。

[参加費] 無料

[申込方法] 事前申込制

右QRコードから申込フォームに
アクセスし、参加登録してください。

主催： 国立民族学博物館日本財団助成手話言語学研究部門SILLR

共催： 関西学院大学手話言語研究センター

お問い合わせ： 高嶋由布子 yufuko.t@gmail.com



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION